

# 評論文の読み方 例文と例題

## 【例文】

太郎は昼寝をしたかった。だから、昼寝をしなかった。

太郎は昼寝をしたかった。だから、昼寝をした。

とはどちらが「論理的」？

太郎は授業中に昼寝をしたかった。だから、昼寝をした。

太郎は授業中に昼寝をしたかった。しかし、我慢をして昼寝をしなかった。

とはどちらが「論理的」？

金星には日本の宿泊施設がない。だから、金星に日本の宿泊施設を建てるべきだ。

は「論理的」？

この学校には女子更衣室がない。だから、女子更衣室を作るべきだ。

は「論理的」？

「論理」は前提。「あらかじめ当然のこととみなしている」といって決まる。

「前提」がわからないと「論理的」か「論理的」ではないかわからない。つまり経験により、「あらかじめ当然のこととみなしていること」かどうかかわからず、何が正しいのかどうかかわからないのだ。

【練習問題】次の文章を読んで、論理の構造を「一般的には余たは××には」と思われている（書いている）が、実は である。」という構造に当てはまるよう、後の空欄に書き入れなさい。

確かに現代は、医療技術の発達によって治療する病気が多くなった。しかし、慢性の病気やがんの末期患者は、体の痛みである身体的苦痛や死への恐怖と不安から来る精神的苦痛にあえいでいる。また、高齢化の進行により、看護を必要とする患者は今後さらに増加するだろう。それなのに、日本では看護師の数が不足している。看護師はとても忙しく、一人で何人もの患者を受け持っている状態である。そのため、患者一人一人に対して時間をかけて、身体的ケアと精神的ケアの両方をおこなうことが出来ないという現実がある。看護師の絶対数の確保は早急に対処すべき重要な課題である。

高度に進んだ現代医療においてこそ、患者の心への想像力を持つて世話をする看護、患者の心をひたひたと豊かに満たすような看護が大切である。いくら技術が発達しても、技術が患者の心を和ませることはない。国の予算を看護充実のためにより割くような制度を作ったり、教育を通して看護の本質やその大切さを根付かせるなどして、社会全体で患者の心を満たす看護を実現していく必要がある。

一般的には

と思われている。

しかし、実は

である。